



ドローンで追いシカ駆除

名古屋の企業 大樹で来月から実験

【大樹】小型無人機(ドローン)を使ったシステム開発などに取り組み情報サービス企業「キャリアオ技研」(名古屋)は4月から十勝管内大樹町で、同町森林組合などと協力し、ドローンを活用したシカ駆除の実証実験を行う。ドローンから人間の声などの音声を流し、「わな」のある場所やハンターが待ち伏せている地点にシカを追い立てる手法の確立を目指す。

道エゾシカ対策課によると、道内では山林にドローンを飛ばしてシカの生息調査を行っている例はあるが、シカを追い立てるために使うのは珍しいという。

同社は3年ほど前から愛知県などの山林で、ドローンを使った有害鳥獣の「追

地元ハンターらを前に行われたドローンの試験飛行

い立て」などの実験を行ってきた。今回、シカ駆除への応用に向けては、民家が少なく、平地も多いとして大樹町を選んだ。

今後3～5年かけて、実験に取り組み、追い立てを活用した効果的なシカ駆除システムをつくる。また、ドローンを森林管理に役立てる方法も探る。4月には同町晩成地区に事業所を構え、地元から10人程度採用する。

2月中旬には同町生花で、地元ハンターらを前にドローンの試験飛行を行った。ドローンは直径90センチ、高さ77センチ。地上から送った人の声を、上空15～20メートルからスピーカーで流す試験も行った。同社産業部門技術部技術管理グループの野々部和夫グループ長は「寒冷地の大樹ではバッテリーへの影響などを調べる必要がある」と課題を指摘した上で、「広大な土地がある大樹は実験にふさわしく、実用化に取り組みたい」と話した。